

会議録（要点筆記）

会 議 名	第3回 米原市部活動地域移行検討委員会
開 催 日 時	令和7年1月23日（木）19時00分～20時30分
開 催 場 所	米原市役所3階 会議室3-DE
出 席 者	出席者： 谷川尚己委員、樋口昭委員、辻村真衣委員、早崎有紀委員 横田仁司委員、中島裕次委員、堀江広明委員、田中理華委員 事務局： 一ノ宮賢了教育長 学校教育課 北川英樹課長、谷本政信コーディネーター 谷川俊浩主幹、坂田将至主幹 スポーツ推進課 平山健治課長補佐 生涯学習課 平山武史課長
議 題	協議事項 ・部活動地域移行方針の策定に向けての検討事項
会 議 内 容	1 開会あいさつ（教育長あいさつ） 2 協議事項 ○部活動地域移行方針の策定に向けての検討事項

委員意見等	<p>協議事項1 基本的な考え方について</p> <p>○子どもたちのニーズに応じていくという考え方は理想的であり、良いと思う。しかし、実際に活動を進めるとなると、指導者の確保が可能なのかという課題も見えている。理想はわかるが実際問題どうなのか。既存の部活動やクラブチームでも指導者が不足している。指導者の確保に向けて、人材バンクを含めた環境整備をどのようにできるのか検討が必要である。（委員）</p> <p>○基本的な方向性は良いと思う。ただ、同じ活動をしていても、楽しく活動をした子どもと勝利を目指す子どもがいて、考え方が違う。また、地域の指導者は、どちらかという競技志向が強いように思う。部活動は、勝ち負けだけではなく、楽しく活動したいという子どもを大切にしながら活動を進めてきた。それが、スポーツの裾野を広げ、スポーツ文化に寄与してきたのではないかと思う。楽しく活動したいという子どもが取り残されないような活動になればと思う。（委員）</p> <p>○県内のある地域クラブでは、水曜日に子どもたちが主体的に自由に活動できる日が設定されている。バスケットボール部を中心に普段様々な活動をしている子どもたちが集まって、主体的に活動を進めている。子どもたちが主体的に活動できるよう体制も整備できると良いのではないか。（委員）</p> <p>協議事項2 活動体制について</p> <p>○スポーツ少年団としては、平日の活動への参加は難しい部分がある。ただ、</p>
-------	--

休日については、スポーツ少年団として応援できる部分が十分にあると思う。柔軟な形で活動体制を整備できると良い。(委員)

→まずは休日の活動を中心に進めながら、平日の活動についても考えていけると良い。

○吹奏楽部については、学校主体で地域の指導者に指導を依頼しているということは頻繁にある。今は、顧問の先生方の繋がりの中で大学生等に依頼をされている。それを行政の方から、地域の指導者に依頼をして、学校に派遣をしていただければ、協力できるのではないかと思う。但し、やはり平日の指導は難しいが、休日の指導であれば、大学生等の学生も含めて学校と地域が連携できると思う。(委員)

○吹奏楽部の顧問として、地域の指導者と連携した経験がある。米原市は、小規模校も多く、地域の方と触れ合う機会は、子どもたちにとって良い刺激となり、素晴らしい経験となる。その時は、個人的に指導を依頼できる人がいなかった中で、地域団体の方から声をかけていただき、連携を図れたことは、大変ありがたかった。地域と関係作りができていない部活動とそうでない部活動があると思う。地域と学校を繋げてくれるような仕組みを作る中で、地域の方々から学校に声をかけていただくとありがたい。その中で地域と良好な関係作りが進められると良いのではないかと思う。(委員)

○私たちの総合型スポーツクラブでは、現在小学生に対して地元の高校生にバレーボールを指導していただいている。小学生だけでなく、指導する側の高校生にとっても指導をすることで学びを深めてくれており、双方にとってメリットがある。また、前回のアンケートの中でバドミントンに対してのニーズが高いこともあり、バドミントンのコースも年間を通してやっていきたいと考えている。地元の高校の顧問の先生に話をしたところ、ぜひ地域貢献をしたいという返事をいただいた。高校との連携は非常に良い取組となっていると思う。(委員)

→文化部については、小学生を対象に地元の書道部が書き初めの指導をしてくれたことが大変好評だった。その他、箏曲部など高校では、熱心に様々な活動をされているので、高校との繋がりも大切だと思う。また現在、学びあいステーション等での講座は、大人を対象にしたものが多いが、文化的な活動やダンスなど中学生を対象とした講座をおこなうことで、受け皿となれる可能性があるのではないかと思う。(事務局)

協議事項 3 地域団体と指導者について

○地域団体として、学校との連携に向けて、地元の中学校の先生方と本音で話し合う機会が必要だと感じる。(委員)

○国の実証事業の中で、休日の活動に中学校に指導者を派遣している。指導者が複数いるが、指導者の中にも指導に対して温度差がある。指導者同士の

連携にも難しさを感じている。また、部活動の中で地域指導者に対して、先生方から大変気を遣っていただいているように感じる。ありがたいが、本音の部分では地域指導者に対して、指導や連携に何かしらの思いを持たれているのではないかと思う。先程の意見の中でも出ていたが、学校の先生方の本音を聞きたい思いもある。(委員)

→○学校の中では、特に若い教員の部活動に対する意識は昔と大きく変わっているように感じる。先生方の中には、本音の部分でいうと、土日の指導に対して負担を感じている方が多い。また、地域の指導者との関係で悩むこともある。休日の指導を、地域の指導者に安心して、任せられる環境を整備できれば、学校にとっては大変ありがたい。そのような環境を整備するためには、学校と地域団体や指導者がスムーズに連携できるようにコーディネートできる人材が重要である。日程の調整等には大変労力を使うことになる。実証事業では、地域団体がコーディネートを担ってくれているが、学校側が担わなければならないとなると、大変な労力を要することになり、学校の負担が大きくなってしまう。地域連携を成功させるには、コーディネートがうまくいくような方策を考える必要がある(委員)

→○地域指導者は、基本的に指導のこののみを考えている。地域指導者は、学校との連携について、コーディネートをしなければならないという意識は持たれていないと思う。地域の指導者を探すことは可能かもしれないが、コーディネートできる人材を確保しなければ、学校と地域の連携がうまく行かずに活動が頓挫してしまう可能性も考えられる。コーディネートできる地域人材や地域団体を確保することが地域連携を成功させる鍵になると思う(委員)。

→○近江八幡市では、市内の全中学校に2人のコーディネーターを配置するという計画をされている。そのコーディネーターが活動の指導者の確保や日程の調整等の全てを担うことになる。地域連携を成功させる上で、コーディネーターの重要性を強く感じる。

○地域連携を進めていく上で、地域指導者は、複数人確保する必要がある。さらに、その複数人の地域指導者が共通認識を持って、学校の先生方がこれまでされてきたような部活動指導や子どもたちへの関わりを求めることは難しいと思う。(委員)

→○部活動に対しての意識の転換無しでは、地域展開は進まないと思う。地域の指導者にそこまで求めるのは無理がある。土日は技術指導を中心にやっていくと割り切ってやっていくべきではないかと感じている。そうしなければ、地域展開は一向に進まない。(委員)

→○学校の先生方も大学で部活動の指導については学んでいない。これまで、部活指導をしてきた顧問の先生方も失敗しながら、その失敗を次

にどうつなげていくかということを考えながら、指導の質を高めていったと思う。(委員)

→○地域指導者に何もかも担っていただくとなると、本当に大変な活動になってしまう。技術指導を中心に担っていただきながら、気になることについては、学校や家庭と連携して指導に当たれる体制を作れたらと思う。そうすれば地域指導者の活動に対するハードルは、少し下がると思う。(事務局)

→○技術指導が、勝利至上主義という訳ではない。子どもたちの上手になりたい、できるようになりたいという思いに応えるような技術指導であればよいと思う。指導者が子ども達の思いに応える中で、創意工夫をして、指導をすることが子どもたちの成長に繋がると思う。(委員)

→○自分の子どもがスポーツ少年団でお世話になった。地域指導者の指導のおかげで、学校ではできない経験をし、成長をさせてもらえた。また、今後地域展開が進む中で新しい環境になったとしても、子どもは柔軟に対応できると思う。ただ、保護者や周囲の大人はこれまでの自分の経験から、新たな活動体制や地域指導者に対して色々と求めてくるかもしれない。そのため保護者や地域に理解を得るための方策を考える必要がある。(委員)

協議事項4 保護者負担について

○加入する部活動によって、費用や送迎の負担に差がでてしまうことが考えられる。地域展開を進める上で、全てに配慮することは難しいと思うが、地域差が出ないように工夫や配慮が必要だと思う。(委員)

○吹奏楽は楽器がなければ活動できないので、楽器の購入もそうだし、楽器の持ち運びについても、運動部活動よりも負担は大きい(委員)

○送迎バスについてはどうか。(委員)

→検討は必要である。ただ、活動場所を巡回させるなど、色々と工夫できる点もあると思う。学校や地域と協議しながら様々な方策を模索する必要がある。子どもや保護者へ配慮をしながら進めたい。(事務局)

○指導者の確保に向けては、無償ボランティアという訳にはいかないため、受益者負担を求めることになる。これまで、部活動ではかからなかった部分の費用については、行政から少しでも負担をしなければ保護者負担が大きくなる。国の施策として進めるのであれば、行政の支援についても検討を進めて欲しい。(委員)

○検討委員会だけで議論を進めるのではなく、保護者や地域の方にも地域展開について理解を広げたり、意見を聞いたりする機会を設けるべきではないか。アンケートだけでは本音の部分がわからない。講演会や各中学校区で開催されている教育フォーラムなどの場を生かしていけると良いのではない

かと思う。(委員)

→ある市では、地域展開について理解を深めるパネルを制作するなどしながら、地域の方々から意見を求めている。子どもたちや保護者、地域が部活動についてどのように考えているのか。本音を知る機会を創出できると良いのではないかと思う。(委員)